

**岡山大学ユネスコチェアとRCE岡山
の連携によるESDへの取り組み**

岡山大学大学院環境学研究科

阿部 宏史

1. ユネスコチェア, RCE
2. 岡山市の概要
3. 岡山地域の取り組み
4. 岡山大学の取り組み
5. 成果と課題

1. ①ユネスコチェア (UNITWIN/UNESCO Chair)

UNITWIN/UNESCO Chair プログラム

大学間連携の促進を目的として、1992年の第26回ユネスコ総会で採択された事業であり、高等教育機関における教育・研究を大学間ネットワークの中で推進し、国境を越えた知識の交換を促すことを目的とする。2007年10月末時点で、125カ国760機関において 630の UNESCO Chairと67のUNITWINネットワークが設立されている。

分野 : Education, Natural Sciences, Social & Human Sciences,
Culture, Communication & Information,
Special Focus (**Environment**, HIV/AIDS, Human Rights, Lifelong
Education, Gender and Women Issues, Youth)



United Nations Educational,
Scientific and Cultural Organization

UNI
TWIN

出所 : ユネスコHP
<http://portal.unesco.org/>

日本の UNITWIN/UNESCO Chair プログラム

- 1) UNESCO Chair on Environmental Management and Infrastructure Development Engineering, *Saitama University*, 1997
- 2) UNESCO Chair on Naval Architecture and Ocean Engineering, *Hiroshima University*, 1997
- 3) A.P.D.E.M. Asia-Pacific Distance and Multimedia Education Network, *Waseda University*, 1999
- 4) UNESCO Chair in Communication, *Bunkyo University Foundation*, 1999
- 5) UNITWIN-UNESCO/KU/ICL Landslides Risk Mitigation for Society and Environment Cooperation Programme, *Kyoto University*, 2003
- 6) UNITWIN Network on emergency preparedness and responses, *Waseda University*, 2005
- 7) UNESCO Chair on Cultural Heritage and Risk Management, *Ritsumeikan University*, 2006
- 8) UNESCO Chair in Research and Education for Sustainable Development, *Okayama University*, 2007

1. ② RCE (Regional Centres of Expertise)

RCE (持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点)

RCEは持続可能な開発のための教育(ESD)を地域コミュニティに提供するために動員された既存の公的・非公的機関組織のネットワークであり、「持続可能な開発のための教育の10年」(DESD, 2005年～2014年)の地球規模の目的を、地方自治体及び地域社会の活動へと形を変えることによって、DESDの目標を達成することを目指している。

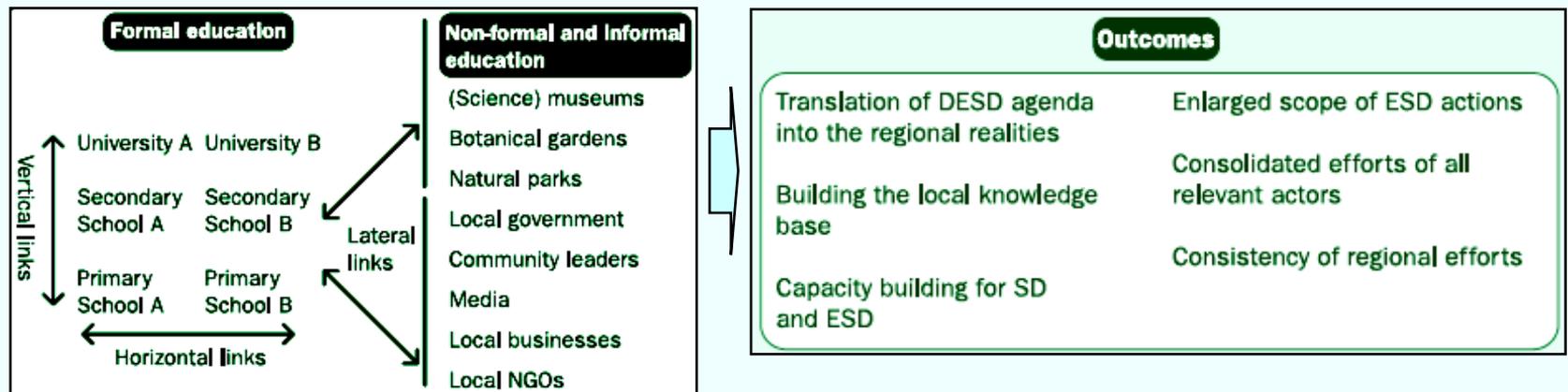
<RCEの中核要素>

- ①ガバナンス : RCE管理及びリーダーシップ
- ②コラボレーション : あらゆるレベルの公的・非公的教育の関係者によるRCE活動
- ③研究開発 : 研究開発の役割及びRCE活動への活用, 共同活動の戦略設計
- ④変化をもたらす教育 : 地域の抱負を達成するための教育・研修システムの変革

RCEの認定状況 (世界45カ所)

- ・日本のRCE : 岡山, 仙台広域圏, 横浜, 北九州, 兵庫-神戸, 中部地方

RCEの機能と目的



2. 岡山市の概要：①地理的特徴

岡山市の地理的特徴

- 人口：約70万人
(2009年4月政令市移行予定)
- 面積：約790 km²
- 気候：晴れの国岡山
- 交通：中四国のクロスポイント
- 歴史：古代「吉備の国」から続く歴史
後楽園・岡山城などの史跡



岡山市都市ビジョン2007 (目指すべき都市像)

- 水と緑が魅せる
心豊かな庭園都市
- 中四国をつなぐ
総合福祉の拠点都市



後楽園と岡山城

2. 岡山市の概要：②都市問題

➤ 高齢化の進展

高齢化率：2010年 20% → 2030年 25%

➤ 都心空洞化（都心6学区の人口）

1960年 約10万人 → 2000年 約5万人

➤ 自家用車の急増

1980年 約10.7万台
→ 2000年 約22.5万台

➤ 低密度拡散型の市街地

➤ 市街地開発による生態系への影響

→ アユモドキ, ダルマガエルなど



寂れる
都心商店街



車があふれる
都心街路



ス°ロールが進む
周辺市街地



アユモドキ



ダルマガエル

3. 岡山地域の取り組み：①地域におけるESD関連活動

➤岡山市環境パートナーシップ事業

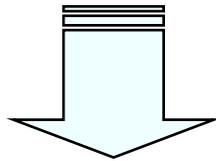
- ・ 2001年4月開始(岡山市環境保全課)
- ・ 2007年3月までに,
841団体(32,076名)が参加

➤公民館を拠点にした環境活動

- ・ 京山ESD推進協議会環境プロジェクト
- ・ 高島旭竜地区エコミュージアム, など

➤NGO, 自治体による国際交流・貢献活動

- ・ 国際貢献トピア岡山構想を推進する会(OTIC)
- ・ 岡山県国際団体協議会(COINN)
- ・ アジア医師連絡協議会(AMDA)
- ・ 岡山県国際貢献条例(2004年制定)



岡山ESDプロジェクト (2005年4月開始)
RCE岡山 (2005年6月認定, 世界7カ所の1つ)



環境点検(京山地区)



公民館での環境集会(京山地区)

持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点 (RCE)

(RCE : Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development)

地域において、ESDに関わりのある組織・団体等のネットワークを作り、関係者が連携・協力してESDをより効果的に実践することを目的に国連大学が推進。

RCE岡山の目標「岡山ESDプロジェクト」(事務局：岡山市環境保全課)

<短期目標> (2005年4月～2007年3月)

- 1) 持続可能な開発(SD)に対する関係者の意識醸成
- 2) ESD参加団体への支援と団体間の連携強化
- 3) 地域特性を考慮したESDプログラムや教材の開発
- 4) 各種団体のESD参加促進
- 5) ESDの推進母体となる団体の育成

<短期目標期間中の重点事業>

- 1) 各学区でのESD関連事業の実施(年1件以上)
- 2) RCE認定地域の住民の5%以上がSD関連活動に参加すること

<長期目標>

- 1) 様々なESD推進団体をESD活動の主体とし、それぞれの立場と役割に応じたESD活動を地域全体で推進する。
- 2) 岡山地域における全ての住民が持続可能な開発(SD)に対する意識を持ち、SDに向けた活動を自発的かつ活発に展開する。

3. ③RCE岡山の推進体制（岡山ESD推進協議会）

1) 対象地域

岡山市を中心に周辺市町村などを加えた地域。当初は岡山市域とし、事業に賛同し、準備が整った周辺市町村を順次加える。

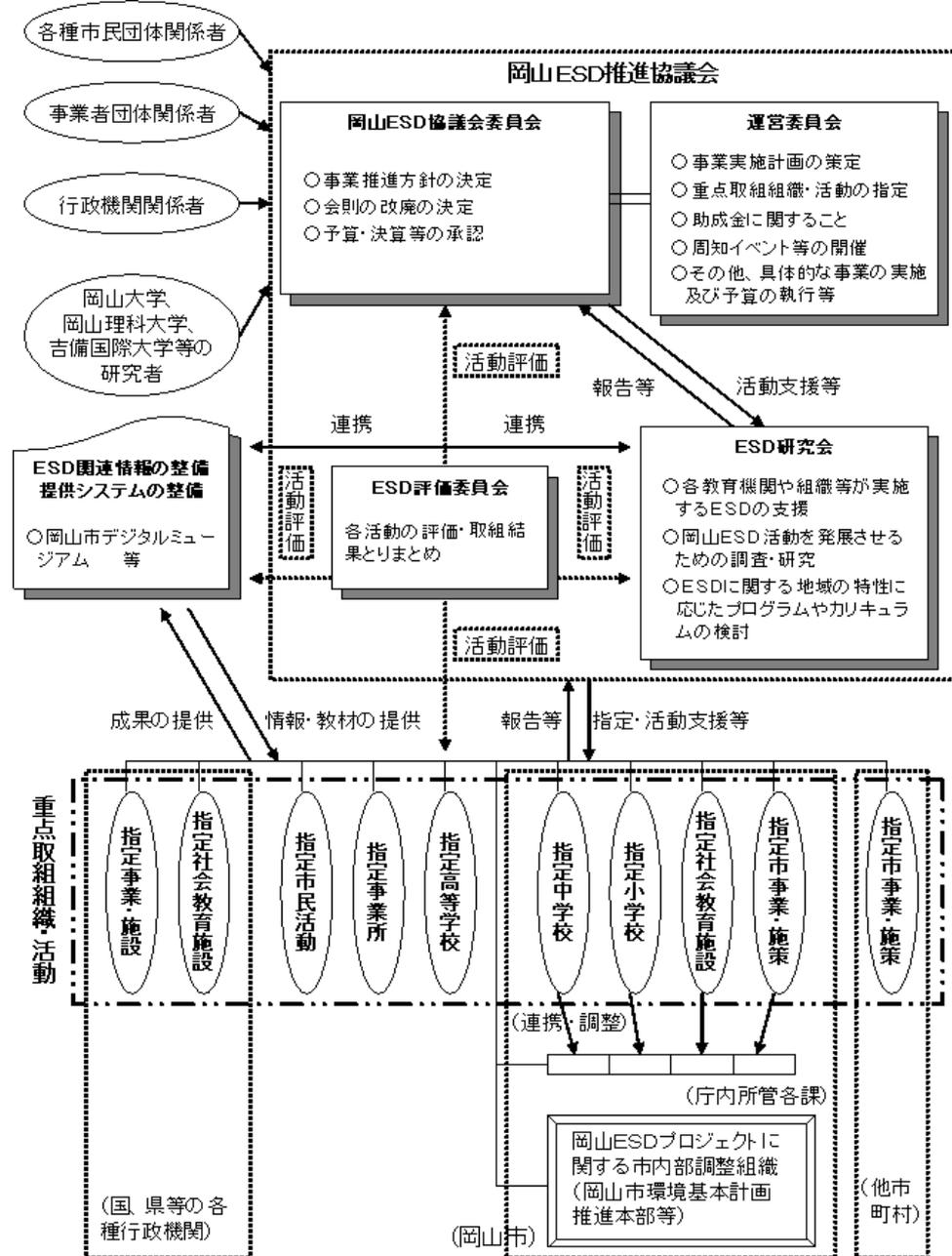
2) 対象活動

ESDが対象とする広範な分野のうち、当面は「環境教育」と「国際理解教育」を主体とした取組を行う。

対象主体は、対象地域内でESDに取り組む組織や団体とする。地域外の組織や施設であっても、対象地域内を対象としたESD活動を行う場合には、対象とする。

3) 推進協議会の組織（右図参照）

- 会長 青山 勲
(岡山大学教授)
- 副会長 三宅正勝
(岡山ユネスコ協会会長)
- 事務局 岡山市環境局環境保全課



岡山市京山地区ESD推進協議会
(2006年7月8日設立)

京山地区ESD環境プロジェクト
(岡山KEEP)

代表：池田満之



環境省「国連ESDの10年促進事業」
2007年度採択

「公民館を拠点とした学社連携・
地域協働によるESDの継続的
促進のための仕組みづくり」

<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/activity/okayama/>

■持続可能な社会に向けた地域の課題

京山地区は、人口の約3分の2を移動人口が占めている上に、地域への社会参加が希薄な20～39歳代が人口比で多い。このため、ゴミ等の環境問題が地域の課題である。また、岡山大学留学生センターなど、地区内に在住外国人も多く、文化風習の違いから摩擦やトラブルも生じている。さらに、交通量の多い都心部にあるため、不審者も増えており、安全安心まちづくりの構築も急務となっている。このため、恵まれた教育環境を活かし、地域の絆の再構築に取り組むことで、地域に目指したESD推進が課題となっている。

■地域課題の解決に教育が果たす(期待する)役割

今の地域が抱える環境、相互理解、安全安心の問題は、全ての世代の地区住民が共通の認識・理解を持ち、協働で取り組まなければ根本的な解決はできない。このため、学校と地域と家庭が連携し、すべての住民の意識、行動、ライフスタイルを持続可能なものに変革するために必要な知識、技能、態度、実践を身につけ、主体的参加と連携するつながり、協働の精神と実践ができる人材育成、ならびにそれを持続可能なものとして成り立たせていくための人材養成者の育成を、教育に期待している。

■ESDのモデルとしてアピールしたいところ

公的社会教育施設である公民館を核に、地区の多様な主体が参加・連携してESDに取り組んでいる点。特に、当該地区では、子どもが主体的かつ中核的に地域づくり、人づくりに参画・活動している。中高生からの要望で、平成19年度からは、中高生が中心になって企画・運営する勉強会や活動もはじまっている。

3. ⑤NGOの活動「おかやま国際貢献NGOサミット」



国際貢献トピア岡山構想を推進する会（略称「トピアの会」、OTIC）

医療，教育，宗教などのヒューマニズムを尊重する岡山の人々の精神文化を活動理念として，NGO団体，とりわけ開発途上国のローカルNGOを支援することによって，国際的な視点から地域の活性化と発展を図ることを目的とし，1994年に設立された。1994年から毎年，「おかやま国際貢献NGOサミット」を開催している。

1996 Religion

1997 Environment

1998 Social welfare

1999 Respect for Human

2000 Education for Sustainable Future

2001 Children's Summit

2002 To Live as a Global Citizen

2003 Decade for Education for Sustainable Development (DESD)

2004 Education for Sustainable Development

2005 Cooperation between Formal and Non-formal Education

2006 Cooperation between NGO's and Universities
towards Realizing a Sustainable Society

2007 Kominkan Summit in Okayama

-Community Development and Promoting ESD

NGOサミットのテーマ



岡山大学が共催

4. 岡山大学の取り組み：①大学の概要

<岡山大学の概要>

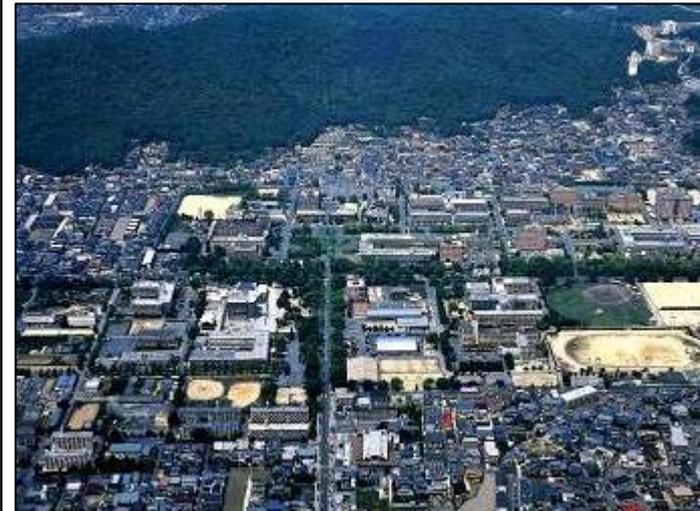
- 経緯：岡山医科大学創立(1922年)
岡山大学創立(1947年)
- 現況(2007年度)
 - ・ 11学部 7 研究科
 - ・ 教員数 1,322名
 - ・ 学生数 12,129名(学部・大学院合計)

<環境関連の部局>

- 環境理工学部 (1994年10月設置)
 - ・ 環境数理学科 (数学系, 学生定員20名)
 - ・ 環境デザイン工学科 (土木・衛生, 50名)
 - ・ 環境管理工学科 (農業基盤, 40名)
 - ・ 環境物質工学科 (化学工学, 40名)
- 大学院環境学研究科 (2005年4月設置)
専任教員72名, 博士前期106名, 後期22名
 - ・ 社会基盤環境学専攻 (環境理工学部)
 - ・ 生命環境学専攻 (農学部・医学部・歯学部)
 - ・ 資源循環学専攻 (環境理工学部)



岡山大学正門付近



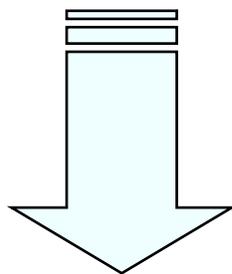
岡山大学津島キャンパス

4. ②環境学研究科の主要事業

①21世紀COEプログラム(2003年度～2007年度)

「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」

- 廃棄物分野における国際的研究教育拠点形成
- ポスドク・博士課程学生を中心とする若手研究者の育成



環境学研究科設置(2005年4月)

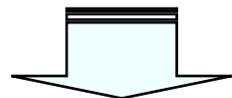
「アジアにおける環境学の拠点形成」

- ・文理医融合による環境学の再構築
- ・国際的に活躍する環境専門家の育成

②魅力ある大学院教育イニシャティブ(2005年度～2006年度)

「『いのち』をまもる環境学教育」

- 国際機関で活躍する環境専門家の育成



岡山大学ユネスコチェア認可(2007年4月)

③文部科学省特別教育研究経費(連携融合事業)(2007年度～2009年度)

「地域発信型による国際環境専門家の育成プログラム:

- ーユネスコチェアを活用したESDの国際拠点形成プログラム」
- RCE岡山との連携によるESD推進と国際環境専門家の育成

4. ③岡山大学ユネスコチェア

岡山大学
持続可能な開発のための教育と研究
UNITWIN/ユネスコチェアプログラム

The UNITWIN/UNESCO CHAIR
PROGRAMME



in Research and Education
for Sustainable Development
at Okayama University

ロゴマーク

<岡山大学ユネスコチェアの目標>

国連持続可能な開発のための教育の10年プログラムを受け、持続可能な社会を創造するスキルを備えた人材を育成することを目標とする。

- ①国連機関等の国際機関で活躍できる国際環境専門家の育成
- ②地域で持続可能社会の実現を推進するための専門家の育成
- ③持続可能な社会構築に貢献する環境教育カリキュラム作成
- ④大学間ネットワークを通じた開発途上国の環境専門家への知識・技術の移転



海外フィールド実習

<2007年度の主要事業>

- ①海外のESD研究者/実務者の招聘事業
- ②海外へ我が国の研究者・ESD実施担当者の派遣
- ③ESD国際シンポジウムの実施
- ④ICTの整備とそれを活用したモデル事業
- ⑤RCE岡山と連携した生涯教育・学習の実施



NGOサミット2006
「ESD国際会議」

「Kominkanサミット in 岡山 —地域づくりとESD推進—」

期 間：2007年10月27日～11月3日（岡山大学，京山公民館，白石島公民館等）
主 催：岡山大学ユネスコチェア
主 催：岡山大学，岡山県国際団体協議会，共催：ユネスコ・バンコク事務所
海外参加者：アジア9カ国20名

<討議テーマ>

- 日本における公民館活動の再評価
- 公民館を拠点とするESD活動の海外移転可能性
- 公民館とアジア諸国のコミュニティ学習センター（CLC）間での情報交換
- 公民館を通じた国際理解の促進と国際交流・貢献の可能性

コミュニティの発展とESD推進におけるの公民館/CLCの役割に関する岡山宣言



<岡山地域におけるESDの特徴と成果>

- ESD活動に対する市民の積極的参加
- 関係者の連携
行政機関(岡山市), 大学(岡山大学, 岡山理科大等),
NGO団体(岡山県国際団体協議会等), 市民(京山地区ESD推進協議会等)
- ESD活動の拠点としての公民館の活用
- 官民による国際貢献活動への取り組み

<現在の取り組みと今後の課題>

- ESDの対象: 環境教育, 国際理解, 多文化共生, 人権, 平和...
- ESDの地域内ネットワーク: 公民館, 安全・安心ネットワーク事業(町内会)
- 公的教育(初等, 中等, 高等)と非公的教育の連携
- ESDカリキュラム開発(学校教育, 社会教育)
→ 教育学部, 小中高との連携によるカリキュラム開発
- 大学でのESD実践による地域モデルの構築
→ カリキュラム開発(教養・専門・大学院), 大学コンソーシアム岡山との連携
- 他地域とのネットワークづくり(RCE, HESD)
- ESDの成果検証